

長野県木島平村 & 早稲田大学 地域連携ワークショップ 2021

地域連携ワークショップとは

まちづくり、地域ブランド、移住定住、お土産、観光……自治体が抱える課題の解決策を、学生チームが提案する実践型ワークショップです。学部・学年を超えて集まった学生同士が議論しながら仮説を立て、自治体関係者や住民の方々へのヒアリングなどを通して提案につなげます。地域の魅力を知り、課題を深く考え、仲間と協働することは、成長の機会になります。

おススメのポイント！

- 現地調査の実施を含む対面・オンライン各型式のハイブリッドで進める課題解決プログラムです
- 地域の実情を知ることは卒業後の職業観やキャリアプランを考えるキッカケにもなります
- 村長や住民の方々に、直接お話をお伺いする機会があります

テーマ

**先端技術を活用し木島平村をもっと便利に暮らしやすく！
～住民生活の向上、農業や観光業の発展に必要なこととは？～**

木島平村では、住民生活の向上や産業の発展のため、先端技術を活用した住みよい村づくりの検討を始めています。政府が推進する DX（デジタルトランスフォーメーション：デジタル技術やデータを駆使して社会や暮らし全体を便利にする大胆な変革）実現も視野に入れておりますが、デジタル人材の不足から、どの分野にどんな技術を活用すればよいか、議論が進まないのが現状です。

そこで学生のみなさんには、DX 実現も選択肢の一つとしながら、木島平村をより便利に暮らしやすくする独創的な提案を考えていただきたいと思います。地域住民や地元企業、自治体関係者等へのヒアリングを通して、住民生活の向上や産業の活性化に寄与する、自由で柔軟な発想を期待しています。

木島平村の魅力

木島平村は、長野県の北部（北信濃エリア）に位置し、東京から約 260 キロ離れた場所にあります。

日本の原風景ともいわれるのどかな里山風景が広がり、温泉、スキー場、高山植物、紅葉等々、四季折々の表情が楽しめる農村地域です。米作りが盛んで、木島平米はかつて江戸城に献上されていたほどの美味しさで、米のコンクールでは、10 年連続最高賞を受賞しています。豪雪に由来する、清らかな水と肥沃な大地を求めて、季節を問わず訪れる人は後を絶ちません。



募集概要

募集期間	2021年12月6日（月）～12月20日（月）17:00 [期間厳守]
募集対象	早稲田大学に所属する正規学部生・大学院生（修士課程）（学部、専攻、学年問わず）
活動期間	2022年2月4日（金）～2022年3月22日（火）
応募条件	全ての公式日程への参加が可能なこと
募集人数	2チーム（10名程度）
応募方法	以下の手順もしくは右のQRコードのリンク先から申請してください。 ① MyWASEDA にログイン ② 申請フォーム一覧から「地域連携ワークショップ 2021 春編」を検索 ③ 「地域連携ワークショップ 2021 春編 応募フォーム」を選んで「申請」をクリック ④ 必要事項（志望理由 400 字程度）を入力して申請 
選考方法	書類選考：結果通知は2021年12月27日（月）17:00までにWasedaメールにて通知します。 ※面接選考（オンライン）を実施することがあります。その際は書類選考合格者に別途案内します。
参加費	8,000円 ※参加費は木島平村滞在中の食事等（朝・昼・夜）に充てられます ※別途、自宅からJR飯山駅までの往復交通費等が必要となります（飯山駅⇄木島平村は村のバスで送迎します）【交通費ご参考（片道 東京→飯山）新幹線指定席 8,580円】※あくまで目安です。 ※宿泊は村内の「農村交流館」を利用し、宿泊費は村が負担します
注意事項	① 当ワークショップは一般授業とは扱いが異なります。成績評価・単位認定等はありません。 ② フィールドワーク（現地調査）の実施を含む対面・オンラインのハイブリッド形式で実施します。活動地は早稲田キャンパス、木島平村内となります。 ③ 新型コロナウイルスの感染拡大状況によっては対面でのイベント（オリエンテーションやフィールドワーク等）がオンラインでの実施に切り替わる可能性があります。その場合、「公共の場所では参加しない」「ヘッドセットなどを装着する」など、第三者に実習内容を知られることがないよう措置を講じてください。 ④ 【重要】フィールドワークへの参加にあたっては出発前に PCR 検査（東京都が実施するモニタリング検査）を受検し、結果を提出いただく必要があります。受検方法、スケジュール等は参加者にご案内します。 ⑤ 参加にかかる費用（フィールドワーク期間中の食費（上段「参加費」参照）、オンラインでの活動に必要な端末の購入費、通信費など）は参加者による実費負担です。 ⑥ 早稲田大学の学生補償制度（損害補償・賠償責任補償）に加入いただきますが、新型コロナウイルスは補償の対象外となります。 ⑦ 募集要項に記載されている日程以外にも、自主的にミーティングやグループワークを実施する機会が多く、期間中は当ワークショップの活動が中心となるよう、スケジュール管理はくれぐれも注意してください。 ⑧ 当ワークショップは複数の地域（第 2 希望まで）に応募することができますが、最終的に参加できるのは 1 地域のみです。当地域を第 1 希望として申請し、選考を通過した場合はその時点で第 2 希望の地域のワークショップには参加できなくなります。 ⑨ 【重要】当ワークショップに応募する場合、同時期に実施されるプロフェッショナルズ・ワークショップへの応募はできません。事前に各ワークショップの特色などをご確認の上、応募してください。 ⑩ ワークショップ実施日と重複する集中科目等を欠席した場合、公欠扱いとはなりません。 ⑪ このプログラムは、グローバルエデュケーションセンター実践型教育プログラム「地域連携実践コース」の対象プログラムです。 ⑫ 選考結果に関する問い合わせにはお答えいたしかねます。あらかじめご了承ください。
問合せ先	教務部教育連携課（rbso@list.waseda.jp） ※問い合わせの際には、件名のほか所属学部／研究科、学年、氏名を必ずメール本文に含めてください。

ワークショップスケジュール

	予 定	日 程	内 容
①	オリエンテーション @早稲田大学	2022 年 2 月 4 日 (金) 11:00～13:30 (予定)	・参加者顔合わせ ・自治体担当者からの説明 ・課題および課題設定に至った背景の説明 ・今後のスケジュール確認 ・事前調査の内容説明
②	事前調査期間	～2 月 15 日 (火)	・木島平村について調査／情報収集を行い、テーマに対する仮説を立てる ・ヒアリングに関する事項（ヒアリング希望先、質問内容など）を検討し、自治体へ提出 ・必要に応じ、大学キャンパスにてグループワーク
③	交流会 @早稲田大学	2 月 16 日 (水) 10:00～12 : 00	・ミニゲームなどを通して参加学生同士の親睦を深める ・フィールドワーク前の注意事項確認
④	フィールドワーク @木島平村	2 月 21 日 (月) ～ 2 月 24 日 (木) [3 泊 4 日]	・村内及び近隣市町村の観光施設などを訪問 ・村長をはじめ、村のキーマンの方々へのヒアリングを実施
⑤	オンラインヒアリング @Zoom	2 月 25 日 (金) ・ 2 月 28 日 (月) ～ 3 月 2 日 (水)	・事前調査やフィールドワークでの検討結果をふまえ、提案の検証に必要なヒアリングを行う ※ヒアリング先のご都合に応じて実施時間は流動的となるため、左記の日程はスケジュールを空けておくようにしてください。
⑥	中間報告会 @早稲田大学	3 月 7 日 (月) 10:00～12:00	・提案内容の報告 ・自治体担当者（@オンライン）、大学職員が参加予定
⑦	プレ報告会 @早稲田大学	3 月 15 日 (火) 13:30～15:30	・最終報告会に向けた進捗確認／発表練習 ※進捗状況によっては左記日程に追加で実施する場合があります。
⑧	最終報告会準備・ 追加調査期間	～3 月 21 日 (月)	・中間／プレ報告会でのフィードバック等をふまえたブラッシュアップ ・提案の再検証（必要に応じて追加のヒアリングを実施）
⑨	最終報告会 @早稲田大学	3 月 22 日 (火) 13:30～15:30	・村長など自治体関係者や地域住民の方々（@オンライン）に向けて提案を発表（約 2 時間） ※最終報告会終了後、学生と大学職員との振り返り会（1 時間程度）を実施するため、解散時刻は 16:30 頃となります。

※上記以外の日程は必要に応じて参加学生同士で相談し、自主的に集まる日程やオンラインでの会議等のスケジュールを決め、ワークショップを進めていきます（学生同士の話し合いに大学職員や自治体関係者が参加することもあります）。

実施の流れ

- オリエンテーション：自治体の方から課題（テーマ）やその背景を聞く
↓
 - 事前調査：
個人、チーム単位で地域やテーマについて調査。
課題に対する仮説を設定し、提案の方向性をまとめる。
どのような方にヒアリングしたいのか、どのような質問をしたいのかりスト化
↓
 - 現地調査・ヒアリング：
自治体関係者、地域住民へのヒアリング（対面＋オンライン）
↓
 - 最終提案資料作成：
現地調査やヒアリングなどを踏まえ、仮説を検証し、最終提案資料をまとめる
↓
 - 最終報告会：自治体関係者、地域住民を前にプレゼンテーション
- 学生同士で時間を決め、対面での打合せや Zoom 等で議論を進める

過去のワークショップ参加学生の声

※当地域の参加学生以外のものも含まれます。

ワークショップでの活動を振り返って

- 「学生だけじゃ何も変えられない」から「学生だから変えられる」という経験ができました。（社会科学部 1 年）
- インターネットで得られる情報は一部に過ぎず、生の声を聞いて初めてわかることがたくさんあった。（中略）また、自分のアイデアを言語化する難しさを痛感した。（文化構想学部 2 年）
- 活動を進めていく中で自分が得意としていることと苦手としていることもはっきりと判明しました。1 ヶ月半課題と向き合うことで、今後自分を成長させるための手がかりを得ることができたと感じています。（人間科学部 2 年）

チームメンバーとの関わりを通して

- 元々考えていた案がヒアリングなどを通じて崩れても、また新たなものを考えようと前向きになれたり、（中略）ひとりではなくチームで提案を構築することの素晴らしさや難しさを体験できたので、今後に活かしていきたいです。（教育学部 2 年）
- 意見を交わさなければ何も始まらないので否が応でも話さなければならない環境で、（中略）それぞれ全く異なる視点から物事を分析しているということがよくわかりました。（政治経済学部 2 年）
- あまり自己主張が得意ではなく、自己肯定感も低めだった自分ですが、今回の WS を通して相手の考えを尊重しながらも自分の意見を主張する大切さを学び、自分の得意なこともチームメンバーに教えてもらいました。（人間科学部 3 年）

「地域貢献」「地方創生」に対する考えの変化

- 自分が住む地域をよりよくするために、行政の方々だけでなく、ヒアリングでお伺いした多くの方々がそれぞれ熱い思いをもつて様々なことを考えていらっしゃることがとても印象的でした。今思えば、ワークショップ参加前は「地域貢献」「地方創生」といったキーワードを軽く考えていたと思います。（教育学部 1 年）
- 「地域振興」は地元の人を中心にやるものというイメージから、外部の人でもできる、むしろ外部の人でなければできないこともあるというイメージに変わりました。（政治経済学部 2 年）